付録／困ったときには

ATコマンドについて …… 110
ATコマンド一覧 …… 111
故障かな？と思ったら、まずチェック …… 119
こんな表示が出たら …… 121
保証とアフターサービス …… 123
ソフトウェア更新について …… 124
主な仕様 …… 125
輸出管理規制 …… 126
知的財産権 …… 128
索 引 …… 129

ATコマンドについて

パソコンでFOMA端末の機能の設定や状態の確認を行うためのコマンド（命令）です。通常は通信ソフトがATコマンドを発行するので、ATコマンドを意識する必要はありません。独自にATコマンドを入力しFOMA端末を制御したい場合に利用します。

ATコマンドの入力形式

ATコマンドの入力は通信ソフトのターミナルモード画面で行います。必ず半角英数字で入力してください。

<入力例>

- ATコマンドはコマンドに続くパラメータ（数字や記号）を含めて、必ず1行で入力します。通信ソフトのターミナルモード画面では最初の文字から↵の直前の文字までが1行になります。

お知らせ

- ターミナルモードとは、パソコンなどを1台の通信端末（ターミナル）のように動作させるモードです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている回線に送られます。

ATコマンド一覧

ATコマンド一覧は「L-05A」モデムポートで使用できるATコマンドです。

- [&F]：AT&Fコマンドで設定が初期化されるコマンドです。
- [?][=?]：コマンド後に[?]を付けると現在の設定を表示し、[=?]を付けると有効範囲を表示します。

ATコマンド	概　要	パラメータ/ 説明	コマンド実行例
AT&C<n>	DTEへの回路CD信号の動作条件を選択します。	n=0：CD は常にON にします。 n=1（初期値）：CD は相手モデムの状態に応じて変化します。	AT&C1 OK
AT&F<n>	FOMA端末のATコマンド設定値を工場出荷時の設定値に戻します。通信中に実行した場合は、通信切断処理を行います。	n=0 のみ指定可能です。（省略可）	-
AT+CGDCONT [?] [=?]	パケット発信時の接続先（APN）を設定します。	P117 を参照	P117 を参照
AT+CGEQMIN [?] [=?]	パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許可するかどうかの判定基準を登録します。	P117 を参照	P117 を参照
AT+CGEQREQ [?] [=?]	パケット通信の発信時に、ネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。	P117 を参照	P117 を参照
AT+CGMR	FOMA 端末のS/Wバージョンを表示します。	-	AT+CGMR 1234567890123456 OK

ATコマンド	概　要	パラメータ/ 説明	コマンド実行例
AT+CGREG=<n> [&F] [?] [=?]	ネットワーク登録状況を通知するかどうかを設定します。	<n> n=0：通知しません（初期値）。 n=1：圏内・圏外に切り替わったときに通知します。 「AT+CGREG?」を実行すると「+CGREG：<n>,<state>」の形式で表示されます。 <state> 0：パケット圏外 1：パケット圏内 4：不明 5：パケット圏内 （ローミング中）	AT+CGREG? +CGREG:0,1 OK AT+CGREG=? +CGREG:(0,1) OK
AT+CGSN	FOMA端末の製造番号を表示します。	-	AT+CGSN 123456789012345 OK
AT+CMEE=<n> [&F] [?] [=?]	FOMA端末のエラーレポートの形式を設定します。	n=0：「ERROR」と表示します。（初期値） n=1：「+CMEE ERROR：xxxx」の形式（xxxx は数字）で表示します。 n=2：「+CMEE ERROR：xxxx」の形式（xxxx は文字）で表示します。 ※ ATZ、またはAT&Fコマンドを使用して初期化した場合、" 0" に設定されます。L-05A に電源投入後と、ATZ、またはAT&Fコマンドを使用した場合の値が異なりますのでご注意ください。	AT+CMEE=0 OK AT+CMEE? +CMEE:0 OK AT+CMEE=? +CMEE:(0-2) OK

ATコマンド	概　要	パラメータ/ 説明	コマンド実行例
AT+CNUM	FOMA端末の自局番号を表示します。	「AT+CNUM」を実行すると「+AT+CNUM CNUM:<number>、<type>」の形式で表示されます。 number: 電話番号 type=129: 国際アクセスコード+を含まない type=145: 国際アクセスコード+を含む	AT+CNUM +CNUM: ,"09012345678",129 OK
AT+COPS=〔<mode>〔,<format>〔,<oper>〔,<stat> 〕〕〕〕 [?] [=?]	通信事業者名/Plmn番号を選択設定します。	<mode> 0：オート（自動的にネットワークを検索して通信事業者を切り替える） 1：マニュアル（<oper>に指定された通信事業者に接続する） 2：通信事業者との接続を解除（切断）する ※ 非サポートとなります。 3：マッピングを行わない 4：マニュアルオート（<oper>に指定された通信事業者に接続できなかった場合に「オート」の処理を行う） ※ 非サポートとなります。 <format> 2：固定値 <oper>は国番号（MCC）とネットワーク番号（MNC）が表示されます。 MCC=440, MNC=10 の場合“44010”と表示されます。	AT+COPS? +COPS:0 OK AT+COPS=? +COPS:(2,,,"44F001",2),(3,,,"44F002",2),,(0,1,3,4),(2) OK
AT+CPAS [=?]	FOMA端末への制御信号が使用できるかどうかを表示します。	「+CPAS:<n>」の形式で表示します。 n=0：可能 n=3：可能かつ着信中 n=4：可能かつ通信中	AT+CPAS +CPAS:0 OK AT+CPAS=? +CPAS:(0-4) OK

ATコマンド	概　要	パラメータ/ 説明	コマンド実行例
AT+CPIN=″ PIN″ / AT+CPIN=″ PUK″ ″ PIN″ [?]	FOMAカードのPIN1コードまたはPIN1ロック解除コードを入力するためのコマンドです。	″ PIN″にはPIN1コード、″ PUK″には PIN1 ロック解除コードを入力します。 「AT+CPIN? 」を実行すると 「+CPIN:<n> 」が表示されます。 n=READY：認証済み n=SIM PIN：入力待ち n=SIM PUK：PIN1 ロック解除コード入力待ち n=ERROR: ロック状態	(+CPIN:SIM PIN 状態) AT+CPIN= ″ 1234″ OK (+CPIN:SIM PUK状態) AT+CPIN=″ 12345678″ ,″ 1234″ OK
AT+CUSD [&F] [?] [=?]	付加サービス等に関し、ネットワークの設定を変更、設定内容の問い合わせを行います。	書式：AT+CUSD=<n>,"<str>"[,0] n=0：中間リザルト <m>[<str>,<dcs>]を送出しない（初期値） n=1：中間リザルト <m>[<str>,<dcs>]を送出する 中間リザルト： m=0：設定完了 m=1：ネットワークから情報要求あり。 str　：0～9、#、＊のみ使用可能。 <str>は""で囲む	AT+CUSD=0, "xxxxxxxxx" OK AT+CUSD=1,"＊148＊1＊0000#" ,0 +CUSD:0,"148＊7#" ,0 OK AT+CUSD? +CUSD:0 OK AT+CUSD=? +CUSD:(0-2) OK
AT＊DANTE	FOMA端末の電波状態（アンテナマークの棒の本数）を表示します。	リザルトの書式： ＊DANTE:<m> m=0 ：圏外の状態 m=1 ：アンテナが0本または1本表示される状態 m=2 ：アンテナが2本表示される状態 m=3 ：アンテナが3本表示される状態	AT＊DANTE ＊DANTE:3 OK
AT+GCAP	FOMA端末の能力リストを表示します。	-	AT+GCAP +GCAP:+CGSM,+W OK

ATコマンド	概　要	パラメータ/ 説明	コマンド実行例
AT+GMI	FOMA端末の製造会社名を表示します。	-	AT+GMI LG Electronics Inc. OK
AT+GMM	FOMA端末名を表示します。	-	AT+GMM FOMA L05A OK
AT+GMR	FOMA端末のS/Wバージョンを表示します。	-	AT+GMR L05A-01-Vxxx-440-10 OK
AT+IFC=<n>,<m> [&F] [?] [=?]	パソコンとFOMA端末間のローカルフロー制御方式を設定します。	n : DCE by DTE の制御 n=0 : フロー制御を行いません。 n=1 : XON/XOFF 制御を行います。 n=2（初期値）: RS/CS（RTS/CTS）フロー制御を行います。 m : DTE by DCE の制御 m=0 : フロー制御を行いません。 m=1 : XON/XOFF 制御を行います。 m=2（初期値）: RS/CS（RTS /CTS）フロー制御を行います。	AT+IFC=2,2 OK AT+IFC? +IFC:2,2 OK AT+IFC=? +IFC:(0,1,2),(0,1,2) OK
AT+WS46=<n> [&F] [?] [=?]	発信時にFOMA端末が使用する無線ネットワークを設定します。	n=12 : GSM n=22 : 3G（W-CDMA） n=25 : GSM+3G（W-CDMA）	AT+WS46? 25 OK
A/	直前に実行したコマンドを再実行します。	コマンド入力後↵は必要ありません。	A/ OK
ATD	パケット発信をします。	パケット発信：ATD*99***＜cid＞# ＜cid＞1～10：+CGDCONT 設定したAPN を表します。	ATD*99***3# CONNECT 7200000

ATコマンド	概　要	パラメータ/ 説明	コマンド実行例
ATE<n> [&F]	パソコンから送信された文字をエコーバックするかどうかを設定します。	n=0：エコーバックしません。 n=1（初期値）：エコーバックします。	ATE1 OK
ATI<n>	認識コードを表示します。	n=0：[NTT DoCoMo] と表示します。 n=1：FOMA端末名を表示します。（+GMMと同じ） n=2：FOMA端末バージョンを表示します。（+GMRと同じ） n=3：OKを表示します。 n=4：FOMA端末の有する通信機能の詳細を表示します。	ATI0 NTT DoCoMo OK
ATS3=<n> [&F] [?]	ATコマンドの文字列の最後を確認する復帰（CR）キャラクタを設定します。	n=13（初期値）：n=13 のみ指定できます。	ATS3=13 OK
ATS4=<n> [&F] [?]	改行（LF）キャラクタを設定します。英文字でリザルトコードを表示する場合は、復帰（CR）キャラクタの次に付けられます。	n=10（初期値）のみ指定できます。	ATS4=10 OK
ATS5=<n> [&F] [?]	ATコマンド入力中に入力バッファの最後のキャラクタを削除するバックスペース（BS）キャラクタを設定します。	n=8（初期値）のみ指定できます。	ATS5=8 OK
ATV<n> [&F]	リザルトコードの表示方法を設定します。	n=0：数字で表示します。 n=1（初期値）：文字で表示します。	ATV1 OK
ATZ	FOMA端末設定を不揮発メモリの内容にリセットします。通信中に実行した場合は、回線切断処理を行います。	-	ATZ OK

ATコマンドの補足説明

■ コマンド名：+CGDCONT

- 概要
  パケット発信時の接続先（APN）の設定を行います。
- 書式
  +CGDCONT=[<cid>[,"<PDP type>"[,"<APN>"]]]
- パラメータ説明
  パケット発信時の接続先（APN）を設定します。設定例は次のコマンド実行例を参照してください。
  <cid>※1：1～10
  <PDP type>※2：PPPまたはIP
  <APN>※3：任意
  ※1 <cid>はFOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。FOMA端末では1～10が登録できます。お買い上げ時には<cid>=1に「mopera.ne.jp」、<cid>=3に「mopera.net」、<cid>=5に「mopera.flat.foma.ne.jp」が初期値として登録されていますので、cidは2、4、または6～10に設定します。
  ※2 <PDP type>はパケット通信のプロトコル方式です。
  ※3 <APN>は接続先を示す接続先ごとの任意の文字列です。
- コマンド実行例
  abcというAPN名を登録する場合のコマンド（PDP typeはIP、cidは2の場合）
  AT+CGDCONT=2,"IP","abc"
  OK
- パラメータを省略した場合の動作
  AT+CGDCONT=：すべての<cid>の設定をクリアします。
  ただし、<cid>=1、<cid>=3、および<cid>=5の設定は、お買い上げ時の状態に再設定されます。
  AT+CGDCONT?：現在の設定を表示します。

■ コマンド名：+CGEQMIN=[パラメータ]

- 概要
  パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。
- 書式
  +CGEQMIN=<cid>[,,<Maximum bitrateUL>[,<Maximum bitrate DL>]]]
- パラメータ説明
  <cid>※1：1～10
  <Maximum bitrate UL>※2：なし（初期値）
  <Maximum bitrate DL>※2：なし（初期値）
  ※1 <cid>はFOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。
  ※2 <Maximum bitrate UL>および<Maximum bitrate DL>はFOMA端末と基地局間の上り、および、下り最大通信速度[kbps]の設定です。なし（初期値）の場合は、すべての速度は許容しますが、値を設定した場合は、それ未満の速度での接続は許容しないため、パケット通信がつながらない場合がありますのでご注意ください。
- コマンド実行例
  (1) 上り/下りすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQMIN=2
  OK
  (2) 上り5,760kbps/下り7,232kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQMIN=2,,5760,7232
  OK
  (3) 上り5,760kbps/下りはすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQMIN=2,,5760
  OK
  (4) 上りすべての速度/下り7,232kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが4の場合）
  AT+CGEQMIN=4,,,7232
  OK

■ コマンド名：+CGEQREQ=[パラメータ]

- 概要
  パケット通信の発信時に、ネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。
- 書式
  +CGEQREQ=[<cid>[,,<Maximum bitrate UL>[,<Maximum bitrate DL>]]]
- パラメータ説明
  <cid>※1：1～10
  <Maximum bitrate UL>※2：なし（初期値）
  <Maximum bitrate DL>※2：なし（初期値）
  ※1 <cid>はFOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。
  ※2 <Maximum bitrate UL>および<Maximum bitrate DL>は、FOMA端末と基地局間の上り、および、下り最大通信速度[kbps]の設定です。なし（初期値）の場合は、ネットワークのQoSを要求しません。
- コマンド実行例
  上り5,760kbps/下り7,232kbpsの速度で接続を要求する場合のコマンド（cidが2の場合）
  AT+CGEQREQ=2,2,5760,7232
  OK

お知らせ

- 上記のコマンド（+CGDCONT,+CGEQMIN,+CGEQREQ）は&F、Zによるリセットは行われません。

リザルトコード

■ リザルトコード一覧

数字表示	文字表示	意味
0	OK	正常に実行しました
1	CONNECT	相手と接続しました
3	NO CARRIER	回線が切断されました
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません

故障かな？と思ったら、まずチェック

まずはじめに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください。（ソフトウェア更新⇒P124参照）
気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

■ FOMA端末が認識されない

症　状	チェックする箇所
FOMA端末が認識されない	USBポートにFOMA端末をもう一度奥までしっかりと差し込んでください。
	L-05A 通信設定ファイル（ドライバ）がインストールされ、正常に動作しているかを確認してください。→P31、P37
	FOMA端末をパソコンに接続したまま起動または再起動を行うとFOMA端末が正しく認識されずに通信できない場合があります。この場合はFOMA端末をいったん取り外し、再度接続してください。それでも通信できない場合はFOMA端末を取り外しパソコンの再起動を行った後、再度FOMA端末を接続してください。
	FOMA端末をUSBポートに接続した後、認識されずデータ通信できない場合には、CDドライブとして認識されている『DOCOMO』アイコンをダブルクリックする、または、「L-05A 接続ソフト」か、「ドコモコネクションマネージャ」を起動することで、モデムとして認識されるようになります。
	PIN1ロック解除コードを10回連続して失敗したFOMAカードは使用できません。ドコモショップ窓口までお問い合わせください。
	パソコンに、CD/DVDライティングソフトが常駐している場合には、終了させてください。

■ 通信時のトラブル

症　状	チェックする箇所
通信できない	サービスエリア内で電波が届いていることを確認してください。
	発信者番号通知の設定が利用するプロバイダの指示と異なっていると通信できない場合があります。指示と異なっている場合は修正してください。→P67、P80
	FOMAカード設定が「PIN1解除」になっているか確認してください。→P63 「PIN1ロック」に設定されている場合、L-05A 接続ソフトを実行して、PIN1コードを入力してください。→P64
	FOMA端末設定と接続先（APN）登録を確認してください。

■ ATコマンドに関するトラブル

症　状	チェックする箇所
ATコマンドを入力したら「ERROR」が表示される	正しいATコマンドを入力しているか確認してください。
	FOMA端末以外の機器を選択していないかターミナルソフトのプロパティを確認してください。
ATコマンドを入力しても[OK]が表示されない	L-05A 通信設定ファイル（ドライバ）が正しく機能しているか確認してください。
	ATまたはatで始まるコマンドになっているか確認してください。

■ ゼロインストールに失敗した

症　状	チェックする箇所
新規ハードウエアの検出画面が表示された	「セットアップウィザードへようこそ」画面が表示されず、ドライバの入力を求める画面になった場合は、一旦キャンセルを行い、FOMA端末をUSBポートから抜いてから、再度USBポートに取り付けてください。 ※なお、パソコンの設定の影響などにより、インストールに失敗する場合には、付属のCD-ROMからインストールを行ってください。→P33

■ その他トラブル

症　状	チェックする箇所
急に動作しなくなった	FOMA端末にFOMAカードが正しく挿入されているか確認してください。→P22
	周辺機器や他のソフトウェアをインストールしたことなどによりパソコンの環境が変わった可能性があります。お使いの周辺機器、またはソフトウェアの製造販売元、メーカにご確認ください。
L-05A 通信設定ファイル（ドライバ）を設定した後、FOMA端末をUSB ポートに接続しても、ハードウェアを検出しない	次のことをご確認ください。 • お使いのパソコンやOSの状態は最新の状態になっていますか？ （必要に応じて、OSやメーカからの修正プログラムを適用してください。） • FOMA端末が認識されなかったUSBポートに、その他のUSBデバイスを取り付けた場合、正常に認識されますか？ • FOMA端末を別のパソコンに取り付けた場合、正常に動作しますか？ • パソコンを初期状態に戻した場合に、FOMA端末は正常に動作しますか？ ※なお、OSやパソコンについての詳細は、マイクロソフト社やパソコンメーカ各社にお問い合わせください。
急にインターネットの速度が遅くなる	FOMA端末をパソコンと直接取り付けている場合には、付属の「USB延長ケーブル」を使用して、パソコンから離した状態で、ご使用ください。
	W-CDMA/HSDPA/GSM のサービス環境が不安定な地域では速度が遅くなることがあります。他の場所に移動して再度接続してください。

こんな表示が出たら

エラーメッセージ	説　明
圏外	圏外または電波の届かない所にあるため、操作ができません。
サービス地域ではありません。ネットワークを再検索しますか?	設定されたネットワークが圏外または電波の届かない所にあるとネットワークのエラーが発生することがあります。ネットワークの設定を再操作してください。
端末の認証に失敗しました。顧客センターまたは代理店にお問い合わせください。	FOMA端末をパソコンに取り付けた状態でパソコン起動または再起動すると、FOMA端末が正しく認識されず、通信不可能な場合があります。この場合、FOMA端末をいったん取り外し、再接続してください。再接続しても通信できない場合は、FOMA端末を取り外し、パソコンを再起動した後、FOMA端末を再接続してください。もし、同様の問題が持続した場合は、ドコモショップ窓口にお問い合わせください。
データ通信中には設定できません。終了後に設定してください。	データ通信接続中には、設定の操作ができません。データ接続が終わった後、再操作してください。
変更するPIN１コードと確認用のPIN１コードが異なります。	2つの新しいPIN1コードが一致していません。新規PIN1コードと確認用PIN1コードが異なります。正しい新規PIN1コードを入力してください。
FOMAカードが挿入されているか確認してください。	パソコンに取り付ける前、必ずFOMAカードをFOMA端末に挿入した後、使用してください。
FOMA端末が取り外されました。	FOMA端末の使用中にはFOMAカードを抜かないでください。
FOMA端末が取り付けられていません。	FOMA端末がパソコンに正しく取り付けられているか、パソコンが認識しているか確認してください。
PIN1コードを3回間違えたため使用できなくなりました。(PIN1 blocked) PIN1コードがロックされています。	PIN1コードを連続して3回失敗したため、使用できる機能が制限されました。PINロック解除コードを入力して解除してください。
PIN1コードが違います。残り(○/3)回入力可能です。再入力してください。	入力したPIN1コードが異なります。正しいPIN1コードを再入力してください。
PIN1コードが違います。(PIN1コードは0123456789のみ使用できます。)	有効のPIN1コードは0、1、2、3、4、5、6、7、8、9です。これ以外のコードは適用されません。
PIN1コードは4～8文字です。	PIN1コードの有効桁は4～8桁です。

エラーメッセージ	説　明
PIN1コードの変更はPINロックが設定されているときに可能です。	PIN1コードの変更のためには、PINロック設定が必要です。PIN解除状態からPINロック状態に変更してください。
PIN1ロック解除コードが違います。残り（○/10）回入力可能です。再入力してください。	入力したPIN1ロック解除コードが間違っています。正しいPIN1ロック解除コードを再入力してください。
SMS送信に失敗しました。	圏外または電波の届かない所にあるため、操作失敗になる場合があります。ネットワークでエラーが発生して操作が失敗する場合があります。
PIN1ロック解除コードがブロックされているためFOMAカードを使用できません。顧客センターにお問い合わせください。	PINロック解除コードを10回連続して失敗したFOMAカードは使用できません。ドコモショップ窓口までお問い合わせください。
FOMA端末の初期化に失敗しました。FOMA端末をリセットしてください。	FOMA端末をパソコンに取り付けたまま起動、または再起動すると、FOMA端末が正しく認識されず、通信できないことがあります。この場合、FOMA端末をいったん取り外し、再接続してください。それでも通信できない場合は、FOMA端末を取り外した後、パソコンを再起動した上、FOMA端末を再接続してください。

保証とアフターサービス

保証について

- FOMA端末をお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および「販売店名・お買い上げ日」などの記載事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申し付けください。無料保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

調子が悪い場合は

- 修理を依頼される前にこの取扱説明書の「故障かな？と思ったら、まずチェック」をご覧になってお調べください。それでも調子が良くないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。

お問い合わせの結果、修理が必要な場合

- ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただきます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。また、ご来店には必ず保証書をご持参ください。
  なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■ 保証期間内は

- 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
- 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良による故障・損傷などは有料修理となります。
- ドコモ指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。
- お買い上げ後のコネクタなどの破損の場合は、有料修理となります。

■ 以下の場合は、修理できないことがあります。

- 故障受付窓口にて水濡れと判断した場合（例：水濡れシールが反応している場合）
- お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や内部の基板が破損・変形していた場合（コネクタなどの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります）

※ 修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

■ 保証期間が過ぎたときは

ご要望により有料修理いたします。

■ 部品の保有期間は

FOMA端末の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後４年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能なことがありますので、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」へお問い合わせください。

お願い

- FOMA端末および付属品の改造はおやめください。
  - 火災、けが、故障の原因となります。
  - 改造が施された機器などの故障修理は、改造部分を元の状態に戻すことをご了承いただいたうえでお受けいたします。ただし、改造の内容によっては故障修理をお断りする場合があります。
    以下のような場合は改造とみなされる場合があります。
    ・接着剤などによりFOMA端末に装飾を施す。
    ・外装などをドコモ純正品以外のものに交換する。
    など
  - 改造が原因による故障、損傷の場合は保証期間内であっても有料修理となります。
- FOMA端末に貼付されている銘板シールは、はがさないでください。銘版シールには技術基準を満たす説明書の役割があり、銘版シールが故意にはがされたり、貼り替えられた場合など、銘版シールの内容が確認できないときは、技術基準適合の判断ができないため、故障修理をお受けできない場合がありますので、ご注意ください。

ソフトウェア更新について

インターネット上のダウンロードサイトからFOMA端末の修正ファイルをダウンロードし、ソフトウェア更新を行います。ソフトウェア更新が必要な場合は、ドコモのホームページの「お知らせ」でご案内させていただきます。

お知らせ

- ソフトウェア更新中は接続しているパソコンからFOMA端末を取り外さないでください。
- ソフトウェア更新（ダウンロード、書き換え）には時間がかかる場合があります。
- ソフトウェア更新に失敗するなどして一切の操作ができなくなった場合は、大変お手数ですがドコモ指定の故障取扱窓口までお越しいただきますようお願いいたします。

主な仕様

■ 対応OS

Windows 2000 Professional日本語版（Service Pack 4以降）
Windows XP Home Edition日本語版（Service Pack 2以降）
Windows XP Professional日本語版（Service Pack 2以降）
Windows Vista 32 bit日本語版（Service Pack 1以降）
Windows Vista 64 bit日本語版（Service Pack 1以降）
Mac OS X 10.4.11 日本語版
Mac OS X 10.5.6 日本語版

■ 通信速度

パケット通信：
受信最大7.2Mbps（ベストエフォート方式）
送信最大5.7Mbps（ベストエフォート方式）

※ 通信速度は、送受信時の技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。ベストエフォート方式による提供となり、実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。
※ 送信時最大5.7Mbpsの対応エリアの詳細についてはドコモのホームページをご確認ください。
※ FOMAハイスピードエリア内であっても、場所によっては送受信ともに最大384kbpsの通信となる場合があります。
※ FOMAハイスピードエリア外のFOMAエリアにおいては、送受信ともに最大384kbpsの通信となります。

■ 環境条件

動作時温度：5℃～35℃
動作時湿度：45%～85%

■ 電源

電源電圧

DC5V±5%（パソコンより給電）

消費電流

通信時最大消費電流
3G：約550mA 以下
GSM/GPRS：約300mA 以下
通信時平均消費電流
3G：約260mA 以下
GSM/GPRS：約260mA 以下
待ち受け時平均消費電流
3G：約90mA 以下
GSM/GPRS：約90mA 以下

※ 使用状況により、消費電流は変動します。

■ 形状

USB接続タイプ

■ サイズ

高さ：約80mm
幅　：約32mm
厚さ：約13.0mm

■ 質量

約37g

輸出管理規制

本製品及び付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」及びその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受けます。本製品及び付属品を輸出及び再輸出する場合は、お客様の責任及び費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問合せください。

European Union Directives Conformance Statement

CE Hereby, LG Electronics Inc. declares that this product is in compliance with:

- The essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC
- All other relevant EU Directives

CE 0168 The above gives an example of a typical Product Approval Number.

FCC Regulations

Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Change or Modifications that are not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

Class B Compliance

This device and its accessories comply with part15 of FCC rules.
Operation is subject to the following two conditions:

- This device & its accessories may not cause harmful interference.
- This device & its accessories must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Body-worn Operation

This device has been tested for typical body-worn operations with the distance of 0.19inches (0.5cm) from the user's body.
To comply with FCC RF exposure requirements, a minimum separation distance of 0.19inches(0.5cm) must be maintained from the user's body.

Consumer Information on SAR (Specific Absorption Rate)

THIS DEVICE MEETS THE GOVERNMENT'S REQUIREMENTS FOR EXPOSURE TO RADIO WAVES.
Your wireless device is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radiofrequency (RF) energy set by the Federal Communications 'Commission of the U.S. Government. These limits are part of comprehensive guidelines and establish permitted levels of RF energy for the general population. The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.
The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health. The exposure standard for wireless devices employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.
The SAR limit set by the FCC is 1.6W/kg.

※ Tests for SAR are conducted using standard operating positions specified by the FCC with the device transmitting at its highest certified power level, the actual SAR level of the device while operating can be well below the maximum value. This is because the device is designed to operate at multiple power levels so as to use only the power required to reach the network. In general, the closer you are to a wireless base station antenna, the lower the power output.

Before a device is available for sale to the public, it must be tested and certified to the FCC that it does not exceed the limit established by the government-adopted requirement for safe exposure. The tests are performed in positions and locations (e.g., worn on the body) as required by the FCC for each model.

The highest SAR value for this device when worn on the body is 1.3W/kg.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this device with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this device is on file with the FCC and can be found under the Display Gant section of http://www.fcc.gov/ after searching on FCC ID BEJL05A.
Additional information about Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the Cellular Telecommunications Industry Association (CTIA) web-site at http://www.wow-com.com.

知的財産権

著作権・肖像権について

お客様が本製品を利用してインターネット上のホームページからのダウンロードなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などをすることはできません。

商標について

- 「FOMA」「ｉモード」「ｉアプリ」「mopera U」「mopera」「WORLD WING」「パケ･ホーダイ」「Biz･ホーダイ」および「FOMA」ロゴはNTTドコモの商標または登録商標です。
- フリーダイヤルサービス名称とフリーダイヤルロゴマークはNTTコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows Vista®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Windows Vistaは、Microsoft® Windows Vista® Home Basic operating system、Microsoft® Windows Vista® Home Premium operating system、Microsoft® Windows Vista® Business operating system、Microsoft® Windows Vista® Enterprise operating system、Microsoft® Windows Vista® Ultimate operating systemの略です。
- Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
- Windows 2000は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略です。
- Windows Vista、XP、2000のように併記する場合があります。
- Apple、Appleロゴ、Mac、Mac OS、Macintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- その他本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

索　引

ア

アンインストール
　L-05A 接続ソフト（ドライバ含む）
　　（Macintoshの場合）. 41
　L-05A 接続ソフト（ドライバ含む）
　　（Windowsの場合）. 36
インストール
　ドコモ コネクションマネージャ
　　（Macintoshの場合）. 75
　ドコモ コネクションマネージャ
　　（Windowsの場合）. 71
　L-05A 接続ソフト（ドライバ含む）
　　（Macintoshの場合）. 37
　L-05A 接続ソフト（ドライバ含む）
　　（Windowsの場合）. 31
インターネットオプション 61
エラーメッセージ 121

カ

海外利用
　海外通信事業者を検索 105
　海外で利用する前の確認 103
　海外で利用できる通信サービス . . . 102
海外利用時のネットワーク設定 106
各部の名称と機能 16
環境条件 125
形状 125
国際ローミング. 102
国際ローミング中の
　ネットワークサービス 103
故障かな？と思ったら、
　まずチェック 119
こんな表示が出たら. 121

サ

自局番号 46
仕様 125
セキュリティ設定 63
接続先(APN)の設定
　L-05A 接続ソフト環境設定 60
セットアップ. 28

タ

対応OS 125
ダイヤルアップ接続. 98
ダイヤルアップネットワークの設定. . . 82
通信速度 125
通信の設定
　パケット通信 21
電源 125
電話帳. 57
　グループ登録および削除 59
　電話帳の検索 58
　電話帳の削除 59
　電話帳の修正 58
　電話帳の登録 58
動作環境 30
ドコモ コネクションマネージャ 70

ナ

ネットワーク設定. 106

ハ

パケット通信 47
　パケット使用量確認 61
　パケット通信に接続 47
　パケット通信を終了 47
パソコンから取り外す 25
発信者番号通知の設定方法. 67
本体付属品. 14

マ

メイン画面. 45
メイン画面の動作設定 45

ラ

ランプ表示. 17

英数字

ATコマンド 110
ATコマンド一覧 111
FOMAカード
取り付け/取り外し 17
PIN解除 63
PINロック .63
PINロック解除コード設定 65
PIN1コード変更 64
FOMA端末から利用できるサービス . . .21
FOMA端末の取り付け/取り外し 22
L-05A 接続ソフト（ドライバ含む）
インターネットオプション 61
起動/終了(Macintoshの場合) 44
起動/終了(Windowsの場合) 44
基本設定 61
セキュリティ設定 63
電話帳 57
ネットワークサービス設定 106
パケット使用量確認 61
FOMAカード設定 62
FOMA端末のリセット 68
SMS 48
FOMAカードトレイ 54
SMS削除 51, 53, 54, 55
SMS下書きトレイ 53
SMS受信トレイ 50
SMS送信済みトレイ 51
WORLD WING 102

ご契約内容の確認・変更、各種サービスのお申込、各種資料請求をオンライン上で承っております。

パソコンから **My docomo（http://www.mydocomo.com/）⇒ 各種お申込・お手続き**

※ パソコンからご利用になる場合、「docomo ID／パスワード」が必要となります。
※「docomo ID／パスワード」をお持ちでない方・お忘れの方は、取扱説明書裏面の総合お問い合わせ先にご相談ください。
※ ご契約内容によってはご利用いただけない場合があります。
※ システムメンテナンスなどにより、ご利用になれない場合があります。

マナーもいっしょに携帯しましょう

FOMA端末を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。

◎こんな場合は必ずFOMA端末を接続しているパソコンなどの電源を切ってください。

■ 使用禁止の場所にいる場合

FOMA端末を使用してはいけない場所があります。以下の場所では、必ずFOMA端末を接続しているパソコンなどの電源を切ってください。

- 航空機内
- 病院内

※ 医用電気機器を使用している方がいるのは病棟内だけではありません。ロビーや待合室などでも、FOMA端末を接続しているパソコンなどの電源を切ってください。

■ 運転中の場合

運転中のFOMA端末のご使用は、安全走行の妨げとなり危険です。

■ 満員電車の中など、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着した方が近くにいる可能性がある場合

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器に悪影響を与える恐れがあります。

■ 劇場・映画館・美術館など公共の場所にいる場合

静かにすべき公共の場所でFOMA端末を使用すると、周囲の方への迷惑になります。

総合お問い合わせ先
〈ドコモ インフォメーションセンター〉

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）**151**（無料）

※一般電話などからはご利用できません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

故障お問い合わせ先

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）**113**（無料）

※一般電話などからはご利用できません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

●ダイヤルの番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。

●各種手続き、故障・アフターサービスについては、上記お問い合わせ先にご連絡いただくか、ドコモホームページにてお近くのドコモショップなどにお問い合わせください。

ドコモホームページ　http://www.nttdocomo.co.jp/

海外での紛失、盗難、精算などについて
〈ドコモ インフォメーションセンター〉（24時間受付）

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号（表1） **-81-3-5366-3114***（無料）

*一般電話などからかけた場合には、日本向け通話料がかかります。

一般電話などからの場合

〈ユニバーサルナンバー〉

ユニバーサルナンバー用国際電話識別番号（表2） **-800-0120-0151***

*滞在国内通話料などがかかる場合があります。

※主要国の国際電話アクセス番号（表1）／ユニバーサルナンバー用国際電話識別番号（表2）は、取扱説明書P104、P105をご覧ください。

海外での故障に関して
〈ネットワークテクニカルオペレーションセンター〉（24時間受付）

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号（表1） **-81-3-6718-1414***（無料）

*一般電話などからかけた場合には、日本向け通話料がかかります。

一般電話などからの場合

〈ユニバーサルナンバー〉

ユニバーサルナンバー用国際電話識別番号（表2） **-800-5931-8600***

*滞在国内通話料などがかかる場合があります。

※主要国の国際電話アクセス番号（表1）／ユニバーサルナンバー用国際電話識別番号（表2）は、取扱説明書P104、P105 をご覧ください。

●紛失・盗難などにあわれたら、速やかに利用中断手続きをお取りください。

●お客さまが購入されたFOMA端末に故障が発生した場合は、ご帰国後にドコモ指定の故障取扱窓口へご持参ください。

マナーもいっしょに携帯しましょう。

○公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元　株式会社NTTドコモ

製造元　LG Electronics Inc.

再生紙を使用しています

'09.05（1版）
MMBB0342702